京都御苑周辺エリア

～梨木神社・下御霊神社・京都府庁・相国寺 ～

視点場（境内）　特に着目する通り
視点場（参道等）　（白線）　主な通り

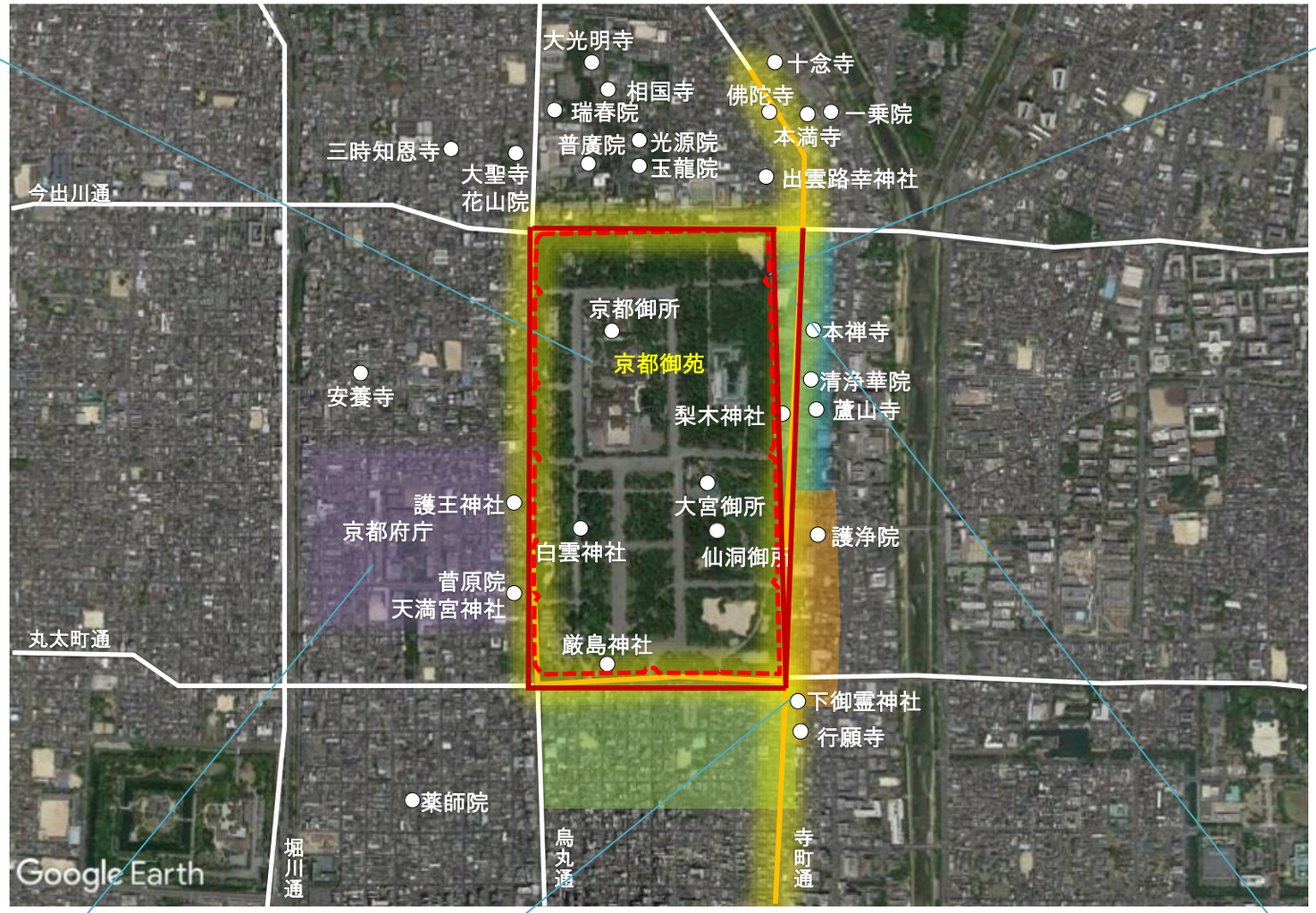
エリア概要

- 御苑周辺地域は、緑豊かな御苑の周囲を取り囲む地域から構成される。今出川通、堀川通及び丸太町通に囲まれた御苑西側の地域には京都府庁、御所北側の烏丸通、紫明通及び賀茂川に囲まれた御所西側の地域には、同志社大学や相国寺が旧市街地景観を色濃く残し、これらの近代建築物や寺院の堂宇が景観に重厚さを与えている。また、この地域の各所から、御所や相国寺の豊かな緑を垣間見ることができる。
- 御苑及びその周辺からなる御苑地域一帯は、御苑の緑が景観上重要な構成要素となっている。御苑を取り囲む烏丸通、丸太町通、今出川通及び寺町通の沿道の敷地には、格調ある建築物と手入れの行き届いた植栽が施され、まとまりのある景観を形成しており、これらは、御所の緑と呼応して良好な景観を形成している。

京都御苑

京都御所は、南北朝期以降、明治までの歴代天皇の皇居である。[1)]
京都御苑の広大な敷地内には豊かな緑があり、境内の歴史的な建物と一体的な景観を形成している。

京都御苑内の眺め



京都御苑に面する通り

京都御苑及びその周辺からなる御苑地域一帯は、御所の緑が景観上重要な構成要素となっている。御苑を取り囲む烏丸通、丸太町通、今出川通及び寺町通の沿道の敷地には、格調ある建築物と手入れの行き届いた植栽が施され、まとまりのある景観を形成している。

今出川通

烏丸通

丸太町通

京都府庁周辺

このエリアは、江戸時代には、禁裏、公家町に近接する町人の街として発展した。[2)] 文久2年（1862）、会津藩が京都守護職に任ぜられ、幕府は土地を買収して用地とし、跡地は京都府庁となっている。[3)]

下御霊神社周辺

天正19年（1591）には、下御霊神社が現在地に移され、町の開発が進行していった。17世紀末前後には、寺院とのタイアップ型の店が並んだ。[4)] 天正17年（1589）の豊臣秀吉による京都大改造で出現した通りが多く、職人衆が多かった通りが多い。[5)] 現在も、その名残か、京人形屋、陶磁器屋など、多くの店が見られ道毎に特色が見られる。

下御霊神社

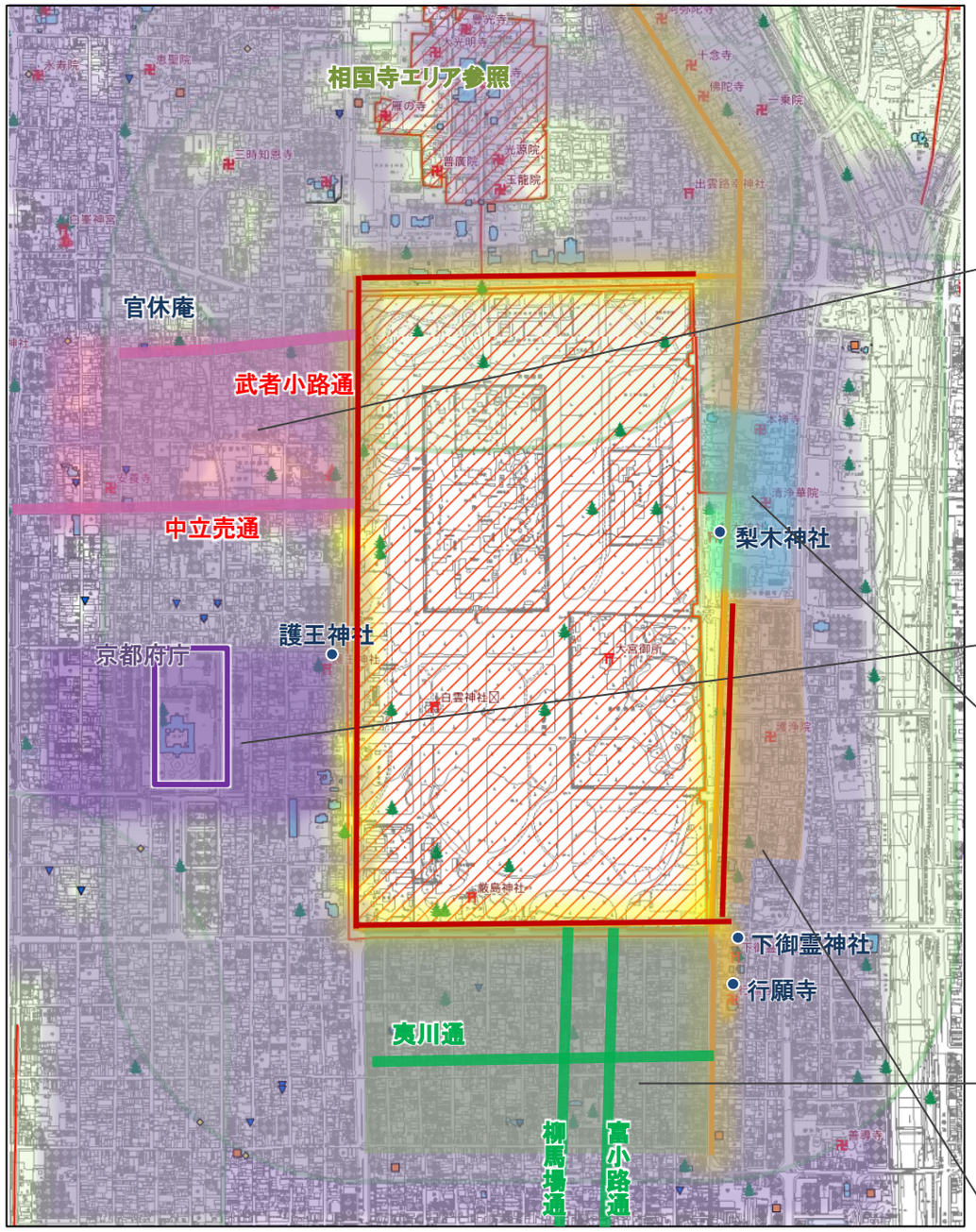
寺町通・梨木神社

天正19年（1591）の豊臣秀吉による都市改造によって、当エリアは景観を大きく変えた。[6)]
明治18年には梨木神社が創建された。[7)]
これら寺町通沿いの寺社と広大な京都御苑の緑が一体的な景観となっている。

梨木神社

寺町通

エリアの概要



※　詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域
- 特に着目する通り
- 明治25年以前から存在する市街地
- 界わい景観整備地区

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等　※

樹木

- 天然記念物
- 保存樹
  - ・区民の誇りの木

※　国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

京都御苑北西側

当エリアは、東隣の禁裏と南西の二条城を結ぶ位置にあり、北西の西陣地区とも接していた。この立地が住民の生業に反映した。中立売町には糸・呉服商の集住があり、烏丸通の上菓子屋は現在も見られる。[9]

中立売通

この通りは、京都御所の御清所に入る門。公家、宮門跡、儒者、御用絵師、御用達商人はこの中立売御門から入った。天皇の御所入りは、現在では入口の広い丸太町堺町からとなっている。堀川通を西に超えると、西陣織の染物屋が見られる。[10]

武者小路通

町家がぎっしりと建て込んだところに、茶の湯の三千家の一つ、武者小路千家の官休庵がある。
現在の茶室は、明治１４年に再建、大正１５年に改築されたものである。[11]

武者小路通

京都御苑南西側

平安京では大内裏に近接し、律令政府の役人や技術職員たちが居住し勤務する官衙町、および高級貴族の邸地となった。
しかし、応仁の乱などによる戦乱によって、武家の陣所へと変貌し、江戸時代には、禁裏、公家町に近接する町人の街として発展する。[12]
文久２年（１８６２）、会津藩が京都守護職に任ぜられ、幕府は土地を買収して用地とした。
跡地は一時京都裁判所に引き継がれたが、明治２年京都府庁、明治４年京都中学校、明治１８年に再び府庁の地となったため、周辺は種々の官公庁舎となった。[13]

京都御苑北東側

豊臣秀吉による都市改造によって、当エリアは景観を大きく変えた。（※以降詳しくは、相国寺エリア参照）[14] 明治１８年には梨木神社が創建された。[15]

梨木神社

寺町通

京都御苑南東側

天正１８年（１５９０）から翌年にかけて断行された豊臣秀吉による都市改造で、寺町の東側に、百万偏知恩寺以下十余の寺院が軒を並べ、その寺院街と河原との間に御土居が築造された。
　当エリアの市街化が進み、明らかに洛中の範疇でとらえられるようになるのは、寛文十年（１６７０）に竣工した賀茂川筋の新堤増築以降のことである。[8]

京都御苑南側

天正１９年（１５９１）には、下御霊神社が現在地に移され、町の開発が進行していった。１７世紀末前後には、寺院とのタイアップ型の店が並んだ。さらには張貫細工などの細工人衆は寺町通に沿って集住していた。[16]

下御霊神社周辺

富小路通

豊臣秀吉による京都大改造で出現したのが、この通りである。江戸の時代、この通りには職人衆が多かったと知られる。[17] 現在も、その名残か、京人形屋、陶磁器屋など、多くの店が見られる。

柳馬場通

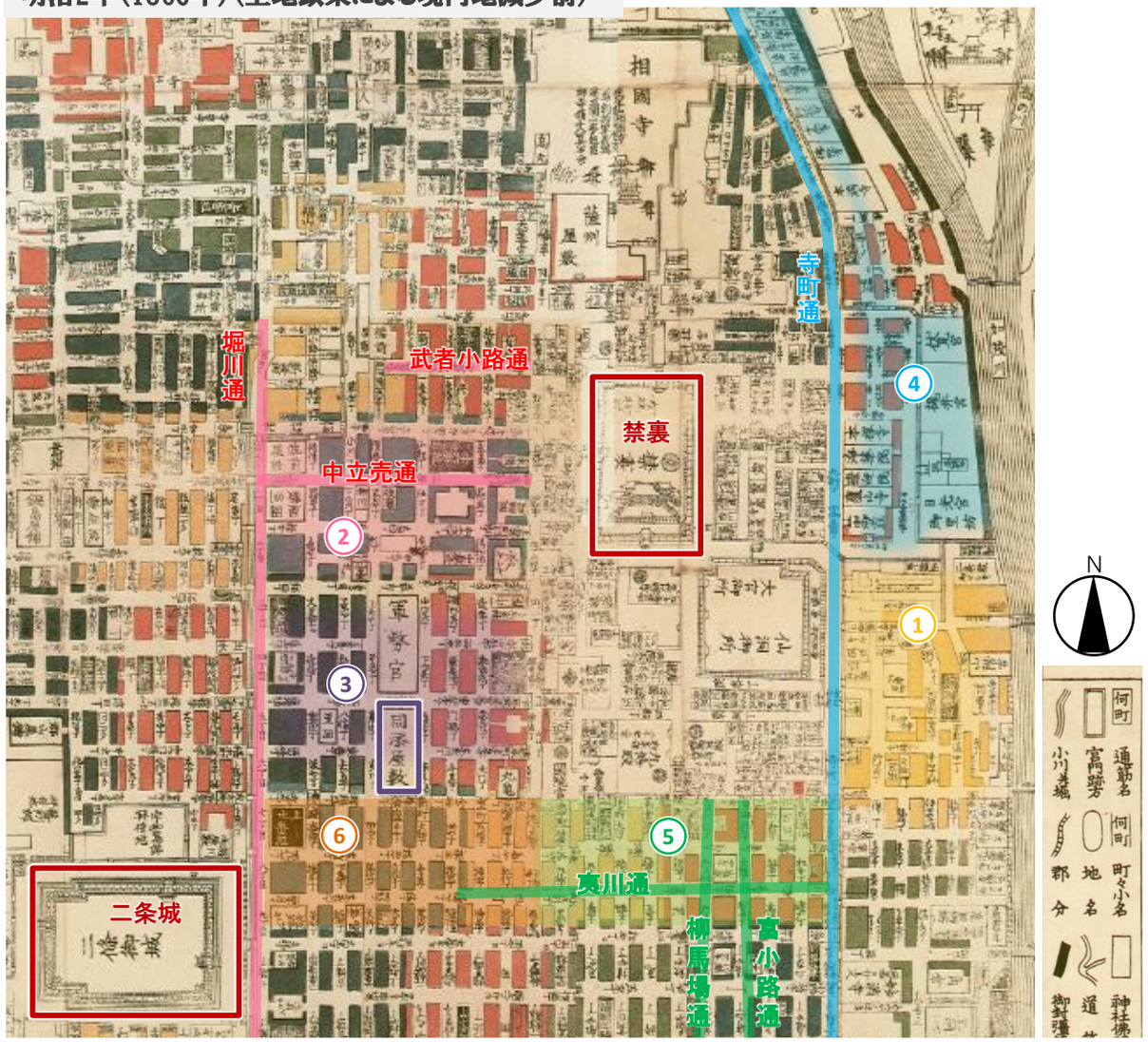
天正１８年（１５９０）の京都大改造で、応仁の乱の後、ほぼ失われてしまっていたこの通りが復活した。通りには、職人衆が多く、元禄期には、木地屋・漆屋・合羽屋・葛籠・扇骨・茶柄杓などの京を代表する手工業者が町を形成していたことを伝えている。[18] その名残か、織物や家具、人形やなどが並ぶ。

夷川通

夷川商店街の発展は昭和に入ってからである。皇居新宮殿に家具を納入した家具屋が現在も看板を出している。また、家具だけではなく、文房具店、五色豆の店などもある。

エリアの土地利用の変遷（1）

明治2年（1869年）（上地政策による境内地減少前）



京町御絵図（明治2年）

① 京都御所南東側

天正１８年（１５９０）から翌年にかけて断行された豊臣秀吉による都市改造で、寺町の東側に、百万弁知恩寺以下十余の寺院が軒を並べ、その寺院街と河原との間に御土居が築造された。

当エリアの市街化が進み、明らかに洛中の範疇でとらえられるようになるのは、寛文十年（１６７０）に竣工した賀茂川筋の新堤増築以降のことである。[19]

② 京都御所西側

このエリアは、時々の政治の中心地に近接しており、このことが地域の構造や機能を規定する、大きな要因となっている。当エリアは、東隣の禁裏と南西の二条城を結ぶ位置にあり、北西の西陣地区とも接していた。この立地が住民の生業に反映した。中立売町にみられる糸・呉服商の集住、烏丸通の上菓子屋の存在などは、端的にそれを表している。

明治になると、廃絶の大名・公家屋敷が随所にみられ、公家を対象とする生業は転換を余儀なくされた。[20]

③ 京都御所南西側

平安京では大内裏に近接し、比較的に土地条件等もよかったためか律令政府の役人や技術職員たちが居住し勤務する官衛町、および高級貴族の邸地となった。

しかし、応仁の乱などによる戦乱によって、古代的景観は全く失われ、このあたりは武家の陣所へと変貌する。その後、豊臣秀吉による都市改造を経て、江戸時代には、禁裏、公家町に近接する町人の街として発展する。[21]

１８６２年、会津藩主松平容保が京都守護職に任ぜられ、幕府はその役邸の敷地にあてるため土地を買収して用地とした。[22]

④ 京都御所北東側

豊臣秀吉による都市改造によって、当エリアは景観を大きく変えた。御土居の築造、寺院群の形成が、この地域を南北につらぬくかたちで進められた。（※以降詳しくは、相国寺エリア参照）[23]

⑤ 京都御所南側

天正１９年（１５９１）には、豊臣秀吉の都市改造によって下御霊神社が現在地にうつされ、町の開発が進行していった。また、禁裏に近接していることから、出入りを許された商人や職人もこの界隈に比較的多く居住していたようである。[24]

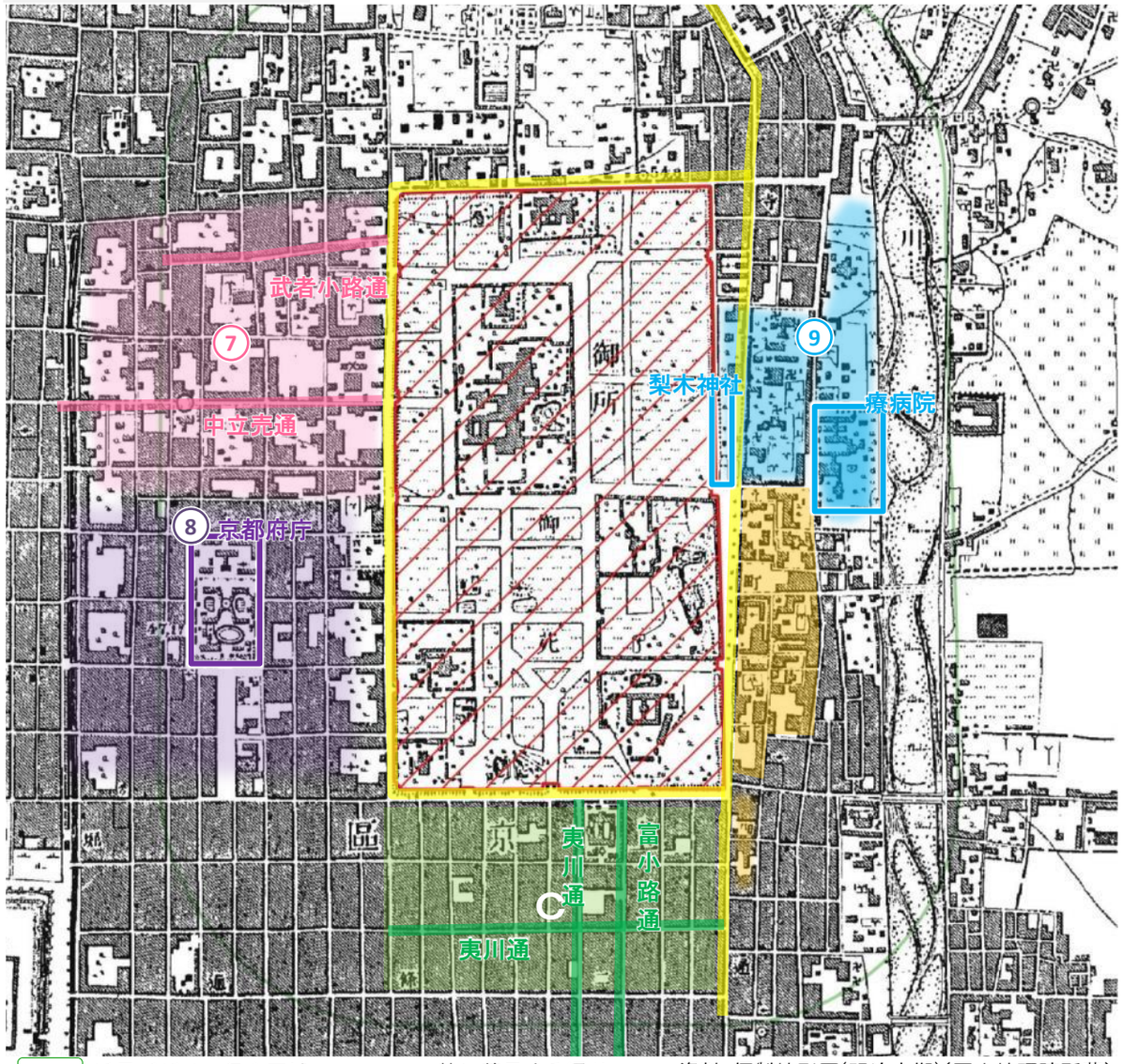
１７世紀末前後には、位牌・櫛・書物・石塔・数珠・挟箱・文庫・仏師・筆屋などがあって、寺院とのタイアップ型の店が並んだ。さらには張貫細工・拵脇差・唐革細工・紙細工・象牙細工・煙管・琴・三味線などの細工人衆は寺町通りに沿って集住していた。その後、明治に入ると、文明開化の一つのシンボル牛鍋屋が生まれ、西洋菓子店・写真館が出現した。[25]

⑥ 京都御所南西側

近世を通じて商業地として栄え、なかでも扇屋・具足屋などが多い。禁裏に近接していることと関係があるかもしれない。[26]

エリアの土地利用の変遷（2）

明治25年（1892年）



近景デザイン保全区域　特に着目する通り
視点場（境内）

資料：仮製地形図（明治中期）（国土地理院所蔵）
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

⑦ 京都御所西側

次第に上京区役所、中立売警察署など、地域行政の中心となる官庁や各種教育機関も設立され、いわば文教・官庁街の趣を呈してくる。[27)]

⑧ 京都御所南西側

１８６７年１２月に守護職が廃止され、跡地は一時京都裁判所に引き継がれたが、明治２年（１８６９）に京都府庁、明治４年には京都中学校、明治１８年には再び府庁の地となった。[28)]

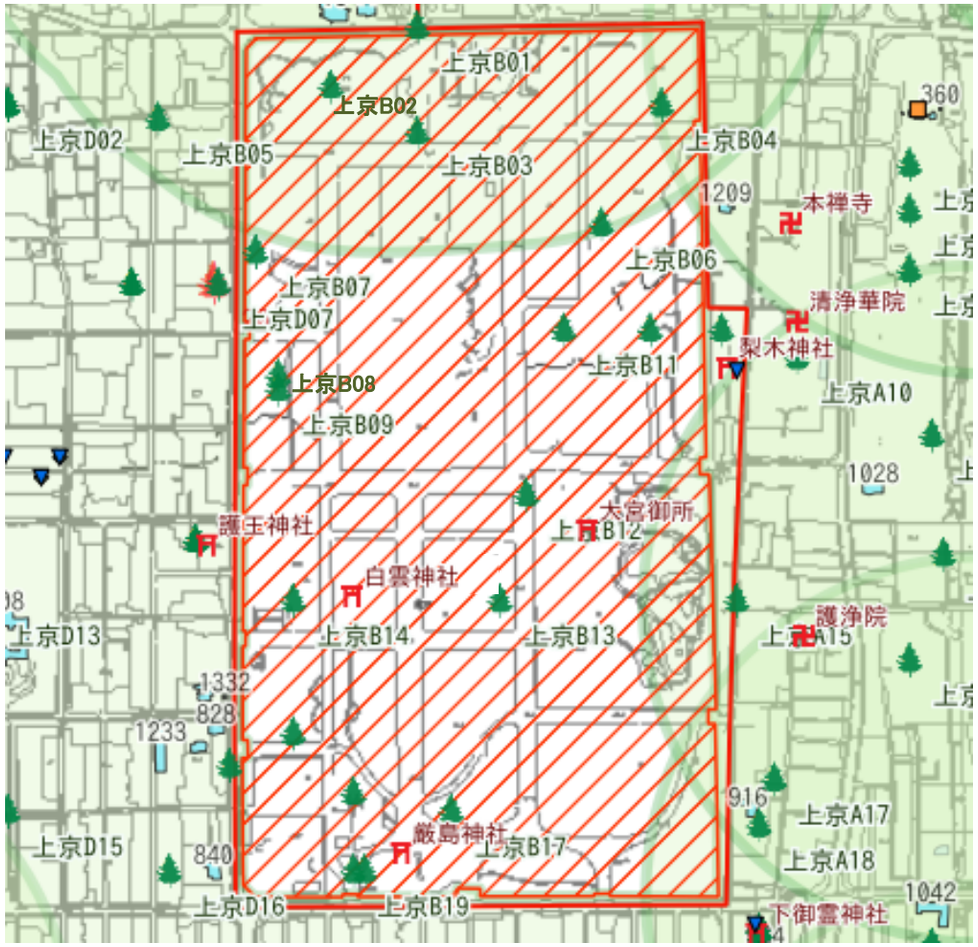
⑨ 京都御所北東側

明治１０年には、病院が移転してきた後、明治１８年には梨木神社が創建された。[29)]

京都御苑の歴史的資産と守っていきたい眺め

京都御苑

明治2年明治天皇の東京遷都後、京都御所をとりまく宮家や公家の屋敷を順次取り壊して苑地とし、大正天皇の御大礼を機に整理された。総面積92ヘクタールのうち、御苑の面積は65ヘクタール。初め宮内庁の所管であったが、昭和24年東京の皇居外苑・新宿御苑とともに国民公園として厚生省の所管となり、同46年環境庁の発足とともに同庁に移管。御苑内の中心建造物の京都御所は、宮内庁の所管。御苑内には針葉樹約4000本、広葉樹約5000本があり、イチョウ・ケヤキ・エノキ・ムクノキ・クスノキ・オガタマノキ・ムクロジ・ハゼノキ・シイノキ。キササゲノキなど十木を数え、また歴史的遺構として九条邸跡、鷹司邸跡、博覧会場跡、学習院跡、染殿跡、猿ケ辻、祐井（さちのい）、近衛邸跡、県井（あがたのい）、蛤御門などの十跡を数える。ほかに運動公園がある。なお京都三大祭のうち葵祭（5月15日）と時代祭（10月22日）の祭行列は、御苑から出発。[30)]



※　詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等　※

樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木

※　国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

■ 樹木

タイワンフウ：今出川御門付近　上京B01　［区民の誇りの木］

タイワンフウは中国原産で、江戸時代に渡来。近衛池の北側にあります。

シダレザクラ：近衛邸跡　上京B02　［区民の誇りの木］

五摂家の筆頭、近衛家の公家屋敷には、古くから「近衛の糸桜」とよばれる紅枝垂桜があり、桜の名所となっていました。現在も一重や八重のシダレザクラが多数植えられ、市民の憩いの場となっています。

フジ：今出川御門付近　上京B03　［区民の誇りの木］

数本のフジが絡み合い、南北４０ｍ、東西２０ｍに及ぶ大群落となっています。

ケヤキ：石薬師御門付近　上京B04　［区民の誇りの木］

京都御苑内には数々の大木があります。このケヤキは園路のすぐ脇にあって、いろいろな角度からその雄大な姿を見ることができます。枝張は３０ｍにも及び、御苑のケヤキの中でも最大級の大きさです。

イチョウ：乾御門付近　上京B05　［区民の誇りの木］

京都御所の北西の園路の角にあり、多方面からよく見えます。

イチョウ：母と子の森　上京B06　［区民の誇りの木］

クヌギやエノキなどに混じって、森の中では最も大きく目だつ存在です。

センダン：清所門前　上京B07　［区民の誇りの木］

春には淡紫色の房条の花が咲き、夏には大きな緑陰が人びとに安らぎを与えます。夏の実は鮮やかな緑色ですが、秋には落葉とともに白黄色に熟します。ほどよく熟した冬の実は、野鳥たちの貴重な餌になります。四季の趣が豊かな樹木です。

ハクモクレン：宜秋門前　上京B08　［区民の誇りの木］

早春に、ほかの花にさきがけて、いちはやく純白の大きな花をつけます。

ウワミズザクラ：宣秋門前　上京B09　［区民の誇りの木］

春に白い房状の花をつける山野の木で、庭木としては珍しい種類です。

メタセコイア：饗宴場広場東　上京B10　［区民の誇りの木］

「生きた化石」とよばれる中国原産で、林立する姿にはすごみがあります。

京都御苑の歴史的資産と守っていきたい眺め(2)

ヤマザクラ：建春門前
上京B11　［区民の誇りの木］

クロマツの樹上で発芽・生長したヤマザクラが花を咲かせるというので、古くから「桜松」と親しまれてきました。平成８年４月に松は倒れましたが、桜は根と枝を伸ばして生長を続け、毎年みごとな花を咲かせています。

スダジイ：大宮御門前
上京B12　［区民の誇りの木］

芝生の中にある大きな木で、秋にはたくさんの実をつけます。

イチョウ：凝華洞跡
上京B13　［区民の誇りの木］

上京区内のイチョウでは最大級の雄大な巨木です。

エノキ：出水口付近
上京B14　［区民の誇りの木］

御苑内のエノキでは最大級。付近のマツやウメなどを従えるかのように、雄大にそびえています。胸の高さでの幹の直径は約１．５ｍもあり、大人３人で囲んでも手をつなげないほどです。夏には心地よい大きな緑陰をつくり、秋には小さな橙色の実に野鳥が集まります。

クスノキ：下立売御門付近
上京B15　［区民の誇りの木］

園路沿いでよく目だつ大木。低い位置でいくつもの枝に分かれています。

クスノキ：宗像神社
上京B16　［区民の誇りの木］

推定樹齢６００年といわれ、太い３本の主幹に分かれた大楠です。

ハゼノキ：仙洞御所南西
上京B17　［区民の誇りの木］

芝生の中にあり、園路から目につきやすい双幹の木です。

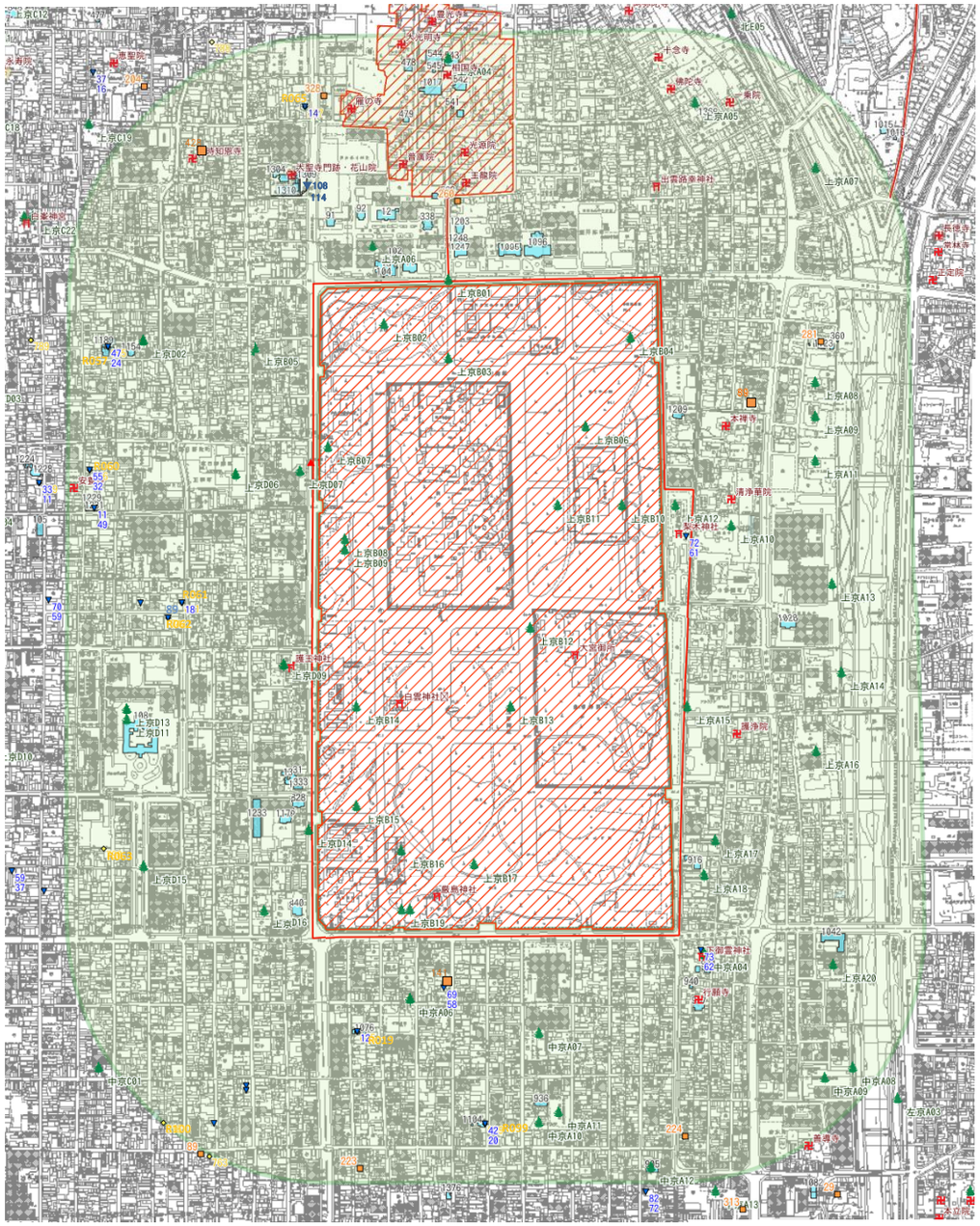
タブノキ：間之町口付近
上京B18　［区民の誇りの木］

海岸でよく見かけるタブノキは暖地性の樹木で、内陸の京都では珍しい種類。

ムクロジ：間之町口付近
上京B19　［区民の誇りの木］

上京区内で最も大きいムクロジです。秋には鮮やかに黄葉します。

京都御苑周辺の歴史的資産(1)



※　詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等　※

樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木

※　国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15･16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

■ 相国寺

［国指定重要文化財(本堂)、 府指定文化財(庫裏･総門等) 、市指定名勝(裏方丈庭園)］

臨済宗相国寺派大本山。万年山と号し、相国承天寺という。本尊釈迦如来。脇子に阿難・迦葉の両尊者、足利義満像を安置する。[31)]

本堂（法堂附玄関廊）※
重文

浴室※
府指定

経蔵※
府指定

勅使門※
府指定

鐘楼※
府指定

弁天社※
府指定

開山堂※
府指定

庫裏※
府指定

方丈※
府指定

方丈勅使門※
府指定

総門※
府指定

相国寺裏方丈庭園
市指定

アカマツ：相国寺　上京A04　［区民の誇りの木］

１７８８年の天明大火で焼失した三門と仏殿の跡地にできた林です。アカマツは裸地となった所に最初に根づく性質があります。広いアカマツ林は、相国寺境内の一大景観であるとともに、大都市内のアカマツ林としては貴重な存在でもあります。

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

京都御苑周辺の歴史的資産(2)

■ 下御霊神社

[景観重要建造物、歴史的風致形成建造物、市指定文化財(本殿等)]

▼73、▼62

丸太町通の南、寺町通に西面して、鳥居・拝殿・本殿が並ぶ。祭神は宇賀御霊大神（八所御霊ともいう）。もと下御霊神社は一条の北、京極の東にあった下出雲寺（現京都市上京区）の鎮守として仁明天皇の創建と伝え、のちに新町近衛の地に移され、天正17年(1589)からの豊臣秀吉の年改造によって、現在地へ遷都された。[32]

（景観重要建造物/歴史的風致建造物　指定理由）
・大鳥居から正門・拝殿・本殿と一直線に配された寺町通りからの光景や、境内を囲む築地塀とそれを越えて姿を見せる大木、檜皮の屋根が周囲の町並み景観を形成している。
・平安期創建以来、貴賤衆庶をとわず敬われてきた。また、前述のように京都の歴史や文化とも深い関連を持ち、現在も地域住民の協力のもと、平安期から続く祭礼を継承する重要な神社であり、祈りと信仰のまち京都の歴史的風致を形成している。

■ 梨木神社

[景観重要建造物、歴史的風致形成建造物]

▼72、▼61

創祀は明治18年（1885）、祭神は三条実万・実美父子。旧別格官幣神社。実万は朝政に参画、嘉永元年（1848）武家伝奏、安政Ⅲ4年（1857）内大臣となり、将軍継嗣問題や開国問題で幕府と対立、同5年官を退き翌6年死去した。文久2年（1862）右大臣を贈られ、明治2年には忠盛と諡された。同17年久邇宮朝彦親王の発議により杜地を三条家の旧邸宅地梨木町（現染殿町）に定め、翌年建立祭祀された。4月18日と10月10日の祭礼には舞楽久米舞が奉納される。[33]

（景観重要建造物/歴史的風致建造物　指定理由）
・本殿や拝殿などの伝統的な建造物と境内を取り囲む高木や京都御苑の樹木とが一体となって歴史的景観をつくり出している神社である。
・明治維新にまつわる歴史など、京都の歴史的風致とも深い関連をもち、境内の染井の水は平安時代までさかのぼるいわれがあり、また秋には萩の名所として多くの市民に親しまれている神社であることから、祈りと信仰のまち京都の歴史的風致を形成している。

ケヤキ　中京A01　[区民の誇りの木]

民家が建ち並ぶ町中では珍しく大木に育ち、周辺からもよく目立ちます。

オガタマノキ　中京A02　[区民の誇りの木]

招霊（おきたま）からその名が付いたといわれ、神社ではよく植えられます。

サルスベリ　中京A03　[区民の誇りの木]

中国南部の原産で、日本には１７世紀にもたらされたといわれています。

イロハモミジ　中京A04　[区民の誇りの木]

付近は「天明の大火」に見舞われているため、樹木はそれ以降に植えられたものと思われます。イロハモミジは京都近郊の山地に多く、春の芽生え、秋の紅葉が美しいので、庭木としてよく用いられます。

エノキ　上京A12　[区民の誇りの木]

梨木神社は、明治の元勲、三条實萬（さねつむ）・實美（さねとみ）父子をまつる神社です。ハギの名所であるほか、御所の三名水である染井（そめのい）で知られています。エノキは参道にあり、比較的低い位置で数本に枝分かれしています。

■ 護王神社

上京区烏丸通出水上ル桜鶴円町にある神社。和気清麻呂・姉広虫（法均）を主神とし、藤原百川・路豊永を合祀する。文覚が高雄にある和気氏の氏寺神護寺を復興するに際し、清麻呂を護王善神として祀り、鎮守社としたのが始まりという。明治19年御所の守護神として現在地に移転。広虫は慈悲深く、京中の孤児を養育したといい、子育て明神と呼ばれ、育児の神として信仰される。拝殿の前に狛犬の代わりに猪像があるが、これは大隅国に流された清麻呂を猪が守護したという故事にちなむ。例祭は4月4日。11月1日に亥子（いのこ）祭がある。[34]

イチョウ　上京D08　[区民の誇りの木]

天をめざして素直に伸びた大木。伸びやかな樹形が特徴です。

カリン　上京D09　[区民の誇りの木]

上京区内で最大級のカリン。秋には黄色い果実がみのります。

京都御苑周辺の歴史的資産(3)

■ 大聖寺

[国登録文化財(本堂等)、市指定名勝(庭園)、景観重要建造物、歴史的風致形成建造物]

臨済系単立寺院。尼五山の一。聖護院が延宝3年（1675）に類焼し、現在地（京都市左京区）に移った跡地に建てられた。景愛寺（現上京区）開祖の如大無着尼の法統を継ぐ。開基は光厳天皇妃の無相定円禅尼で、貞治7年（1368）光厳天皇の法事を京都天龍寺で行ったとき、春屋妙葩ついて落飾した。足利義満が禅尼を室町御所の岡松殿に迎え、ここに居したのが大聖寺の最初であり、岳松山と号した（平安通志）。

後花園院姫宮らの入寺（親長卿記）があり、寺伝によれば正親町天皇の皇女入室の時、当寺を尼寺第一位とする綸旨が下された。以後皇女の入室が続き門跡寺院とされた。[14)]

（指定理由）
京都御苑の北西、烏丸通沿いにあって、通り沿いに続く築地と表門、築地越しに見える本堂や玄関棟の大屋根、玄関車寄の銅板葺唐破風屋根が見せる堂々たるたたずまいが重厚で落ち着きのある景観を形成している。また、尼門跡筆頭寺院として御寺御所とも称され、御殿前に広がる庭園など尼寺に相応しい優美さを備える貴重な建造物である

▼108▼114

本堂※1
国登録

宮御殿※1
国登録

残月亭※1
国登録

渡り廊下※1
国登録

玄関※1
国登録

表門※1
国登録

高堀※1
国登録

東面築地※1
国登録

南面築地※1
国登録

庭園
市指定

■ 行願寺

[市指定文化財(本堂等)]

本堂　市指定
（附 厨子1基・棟札2枚祈祷札1枚）及び鐘楼（附 棟札1枚）※2

竹屋町通が寺町通に突当る付近、寺町通に西面して位置する。霊麓山と号する、天台宗寺院。本尊千手観音、革堂（かわどう・こうどう）ともいう。西国三十三所観音霊場第十九番札所。初め一条小川真町にあり一条北辺堂ともよばれていた。「日本紀略」永祚元年（989）8月13日条に、鴨川氾濫のために「一条北辺堂舎」が倒壊したとある。[36)]

※1：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）
※2：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

京都御苑周辺のその他の歴史的資産(1)

■ 景観上重要な建築物、庭園等

片岡邸

[景観重要建造物、歴史的風致形成建造物、歴史的意匠建造物]

◆R060▼55▼32

（指定理由）
・西陣の東端に位置する大正末期の町家で、外観意匠を良く残しており、小川通にいくつか残る町家とともに、通りの景観の形成に重要な建物である。
・呉服商としての歴史と、暮らしの場である町家の伝統を歴史的意匠により現代に継承する、重要な建造物であり、ものづくり・商い・もてなしのまち京都及び暮らしに息づくハレとケのまち京都の歴史的風致を形成している。

澤井醤油本店

[景観重要建造物、歴史的意匠建造物]

◆R061▼18

（指定理由）
・主屋は中長者町通に面して良好な景観を形成し、建築当時と変わらず使用されていることも含め、歴史を継承する建造物として貴重ある。加えて、新町通に面した主屋、別棟と３棟の土蔵が連なる景観は、特徴のある通り景観を形成している。

藤野家住宅

[景観重要建造物、歴史的風致形成建造物、京都を彩る建物や庭園]

▼69▼58■141

（指定理由）
・京都の市街地にあって、かつては大塀造りの住宅が数多く見られた地域に位置し、その特徴的な外観意匠を現在も良好に維持、保全しており、通り景観の形成に重要なものである。
・大塀造りの町家で、数寄屋の意匠が隆盛期を迎える大正から昭和初期の特色をよく残しており、京町家の暮らしの伝統を歴史的意匠とともに現代に継承する重要な建造物であり、暮らしに息づくハレとケのまち京都の歴史的風致を形成している。

キンシ正宗堀野記念館（旧堀野家）

[景観重要建造物、歴史的風致形成建造物、歴史的意匠建造物、国登録文化財（主屋等）]

◆R099▼42▼20

（指定理由）
・典型的な町家の意匠を残しており、間口も広く、御所周辺の通り景観の形成に重要である。
・代々受け継ぐ酒造りの伝統を歴史的意匠により現代に継承する重要な建造物であり、ものづくり・商いの歴史的風致を形成している。

山本邸（仁風庵）

[景観重要建造物、歴史的風致形成建造物、国登録文化財]

▼11▼49

（指定理由）
・大規模な庭園を有する和風邸宅の中に、テラスに見られる洋調のしつらえや、洋間に設けられた出窓や造作を施したガラス照明など、京都でも数少ない近代和風建築として貴重であり、中立売通及び小川通に面した１辺が３０m以上にも及ぶ塀、門、駒寄せ及び土蔵は、通り景観の形成に寄与している。また、塀越しに覗く植栽は、建造物と相まって、地域の景観を豊かなものとしている。

武者小路千家

[国登録建造物（主屋等）、歴史的意匠建造物（官休庵）、市指定名勝（官休庵庭園）]

※

茶道家元。上京区武者小路通小川東入。千利休を祖とし、千少庵・千宗旦を経て10世紀有隣斎千宗守に至る。宗旦の次男一翁宗守（1593～1675）を一世とする。一翁は、初め塗師の家に入り吉文字屋甚右衛門を名乗るが、のちに茶家としてたち、四国高松松平家に仕官。これを辞して茶室官休庵を建てたことにより、武者小路千家の基礎が固まった。以後歴代家元は松平家に出仕。邸内には半宝庵をはじめ、環翠園・弘道庵などの茶室がある。

官休庵

◆R057▼47▼24　※

上京区武者小路通小川東入にある武者小路千家の代表的な茶室。千宗旦の次男で、同家初世の一翁が四国高松藩の仕官を辞し、寛文7年（1667）に造立したと伝える。官休とは仕官を休むの意。以後、安永・天明・嘉永の火災で焼失するが、明治14年八世一指斎が再建し、大正15年九世愈好斎が改装。内部は一畳台目に幅五寸の半板を入れ、点座前の後方に半畳大の遺球を設ける。今日庵に似て水屋洞庫・向切の炉などを備えるが、向板はなく、下座床で、席内はゆとりを感じさせる。
現在の露地は一指斎の指図のもとに新規につくられたといい、露地内にある四世直斎好みという中門は桧皮葺の屋根が大きな曲線をもち、別名編笠門。中門で仕切られた露地内は四方仏の蹲踞（つくばい）を中心とする。

勝間邸

[景観重要建造物、歴史的意匠建造物]

◆R056▼14

（指定理由）
・主屋と土蔵は内外部共に良好に維持された質の高い建造物で、京都を代表する近代建築である同志社の学舎と共に、近代の風景を烏丸通沿いに残す貴重な建造物である。また、建造物と同様に良好に維持された庭は、建造物の価値を高めるだけでなく、塀越しに伺える植栽が建造物と共に、良好な通り景観の形成に寄与している。

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

京都御苑周辺のその他の歴史的資産(2)

西島家住宅

[景観重要建造物、歴史的意匠建造物、国登録文化財(主屋、土蔵)]

◆R019▼12

・表屋、主屋は明治前期の典型的な表屋造の形態で、建築当時の姿を留める建造物本体に加え、釜戸(クド)等の設備が良好に維持された建造物であり、土蔵は京都でも数少ない元治の大火以前の建造物として貴重である。

太田邸

[歴史的風致形成建造物、歴史的意匠建造物]

◆R062▼89

・江戸期から戦前まで禁裏御用の張物業を営んでいた太田家の居宅と工場。張物（絹布の板張りなど）に必要な縦長の大空間を持つ工場を特徴とする。
・禁裏御用をつかさどる張物業としての歴史と、暮らしの場である町家の伝統を歴史的意匠により現代に継承する重要な建造物である。

[歴史的意匠建造物]

小堀邸

◆R063

堀内長生庵

◆R100

湯本家

[京都を彩る建物や庭園]

明治期の建築と推定される平家建ての木造建物である。歴史学者湯本文彦が終の住家としたことから、同人に関する研究資料等が多く残されている。

■260

岩崎家

[京都を彩る建物や庭園]

明治初期建築の伝統的な木造住宅。厨子２階建てで、出格子、虫籠窓が意匠を彩り、加敷造の軒裏からも歴史を感じる。庭は「花の庭」で四季折々の花が楽しめる。

■89

二条通に面して５間強の間口を持つ、平入り形式の大型京町家である。厨子２階西側に虫籠窓が残り、切子が２本入るやや太めの１階出格子は重厚感を与えており、 ２階大屋根は軒が深く取られている。２間弱の間口を持つ通り庭には、吹き抜けに梁組みが見られ、入口に対面する竈の位置も特徴的である。床、平書院、違い棚等のある主座敷も、本格的な作りとなっている。四季折々の花が彩る庭には、主木のクロマツが存在感を発揮し、白川石で作られている灯篭や手水鉢等が配置されている。アルミ格子を木製に復元することで、まち並みの維持・向上に寄与しており、京町家の落ち着いた佇まいを今に伝えている。

村上開新堂

[京都を彩る建物や庭園]

昭和37年(1904年)創業の洋菓子店である。看板の文字、カーブのついたショーウィンドウなどレトロなたたずまいが歴史を感じさせる。店内には木枠のショーケース、タイル針の床などが当時のまま残されている。

■224

北村美術館四君子苑

[京都を彩る建物や庭園、国登録文化財(玄関等)]

数寄屋造の名工北村捨次郎により昭和19年（1944）に建築、進駐軍の接収後、住宅棟はモダニズム要素を含んだ近代の数寄屋として改築された。庭は多彩な石造品を配し、比叡山・如意ヶ岳を望めるなど趣向に富んだものとなっている。

表門等/国登録　■281

四君子苑は、山林地主で昭和の数寄者である北村謹次郎の邸宅として、昭和19（1944）に数寄屋造の名工北村捨次郎により建てられた。表門、玄関・寄付、渡り廊下・腰掛、離れ茶席は、同氏の作意溢れる技巧を凝らした構成となっている。昭和38年（1963）に改築された主屋は、吉田五十八の設計によるもので、数寄屋とモダニズムを融合した空間は近代の数寄屋の名作である。また、敷地の全体には重要文化財の宝篋印塔をはじめとする多彩な石造品を配し、敷地南端には、細長い露地、敷地中央には流れや池、園路を配した庭、離れ茶席の東側には、比叡山、如意ヶ岳を望める庭がある。四君子苑は、数寄を凝らした造りの建物や趣向に富んだ庭で構成される遺構として重要である。

京都御苑周辺のその他の歴史的資産（2）

［国登録文化財］

旧京都中央電話局上分局※
国登録

中村宗哲住宅※
国登録

平安女学院　明治館※
国登録

平安女学院　昭和館※
国登録

平安女学院
有栖館　主屋※
国登録

平安女学院
有栖館　青天門※
国登録

平安女学院
有栖館　長屋門※
国登録

［府指定文化財］

京都府立医科大学
旧附属図書館※
府指定

本満寺蓮乗院　霊屋※
府指定

［市指定・登録文化財］

日本聖公会
聖アグネス教会　聖堂
市指定

大丸ヴィラ
市登録

日本キリスト教団
京都御幸町教会　会堂
市指定

新島襄旧邸
市指定

京都ハリストス正教会
生神女福音聖堂
市指定

［国指定史跡］

御土居※
国指定

頼山陽書斎
（山紫水明処）　※
国指定

［市指定史跡］

今出川通寺町東入表町
（大原口）道
市指定

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

京都御苑周辺のその他の歴史的資産(3)

■樹木等

ソメイヨシノ：本満寺 上京A05
［区民の誇りの木］

区内で最大級のソメイヨシノと思われ、寺の境内は桜の名所となっています。

クスノキ：同志社大学 上京A06
［区民の誇りの木］

大学の南門付近にあり、キャンパスの大きな緑陰となっています。

イチョウ：京都地方法務局 上京A16
［区民の誇りの木］

高さも太さも申し分のない巨木。そばにはこの木をまつる祠があります。

ナンキンハゼ：京都市歴史資料館 上京A17
［区民の誇りの木］

資料館のシンボルとして、入口に植えられています。

ソメイヨシノ：賀茂川右岸 上京A07
［区民の誇りの木］

賀茂川の土手に並木状に植えられました。のびのびとした樹形が特徴です。

エノキ：聖ドミニコ会 上京A08
［区民の誇りの木］

鴨川沿いにある大木で、樹冠が大きく、対岸からよく見えます。

ヒマラヤスギ：新島襄旧宅 上京A18
［区民の誇りの木］

入口の正面にあり、洋館の建物とよく調和しています。

ソメイヨシノ：元春日小学校 上京A19
［区民の誇りの木］

交差点に面した校門脇にあり、まちの風景の一部としてとけ込んでいます。

ケヤキ：府立医大体育館 上京A09
［区民の誇りの木］

樹冠の一部が欠けていますが、まとまった景観となっています。

クロマツ：廬山寺 上京A10
［区民の誇りの木］

謡曲の『東北』にちなむ潤庭の松で、「雲水の井」のかたわらにあります。

イチョウ：鴨川銀杏館 上京A20
［区民の誇りの木］

豊臣秀吉がおこなった京都改造で築かれた御土居の上にあります。ビルに近接しているので、やむなく剪定されて、特異な樹形となっていますが、高さも太さも申し分のない巨木で、現在も生長を続けています。

イチョウ：乾御門付近 上京B05
［区民の誇りの木］

京都御所の北西の園路の角にあり、多方面からよく見えます。

エノキ：聖トマス学院 上京A11
［区民の誇りの木］

鴨川沿いにある大木で、自然樹形を残しています。

エノキ：府立大学付属病院 上京A13
［区民の誇りの木］

鴨川沿いの病院の敷地に大木が並び、良好な景観を形成しています。

クロガネモチ：霊光殿天満宮 上京D01
［区民の誇りの木］

クロガネモチは雌雄異株。この木は雌株で、秋には赤い実をつけます。

オガタマノキ：霊光殿天満宮 上京D02
［区民の誇りの木］

神木として植えられることが多く、オイタマ、オキタマともよばれます。

ムクノキ：KKRくに荘 上京A14
［区民の誇りの木・保存樹］

クロマツ：寺町通 上京A15
［区民の誇りの木］

京都御苑の東側、寺町通に面する並木で、街道の雰囲気があります。

ソメイヨシノ：上京中学校 上京D05
［区民の誇りの木］

新制中学発足時（昭和２２年）に、記念樹として植えられました。

ソメイヨシノ：上京中学校 上京D06
［区民の誇りの木］

校門脇にあり、赤れんがの塀と調和しています。

京都御苑周辺のその他の歴史的資産（4）

エノキ：
京都府公館　上京D07
［区民の誇りの木］

屋根を覆うほどの雄大な大木。秋には色づいた落葉の絨毯が拡がります。

ユリノキ：
京都府庁　上京D11
［区民の誇りの木］

下立売通に面した正面入口の西側にある府庁のシンボルです。

クスノキ：
銅駝美術工芸高等学校　中京A08
［区民の誇りの木］

元銅駝中学校以来の樹木の一つで、高等学校開校に当たり移植し保存されました。

イチョウ：
銅駝美術工芸高等学校　中京A09
［区民の誇りの木］

銅駝美術工芸高等学校は、京都府画学校として明治１３年に創設され、当初は「日本最初京都画学校」と呼ばれました。明治２２年に京都市に移管され、「京都市画学校」と改称しましたが、その後もたびたび名称を変えました。戦後は日吉ケ丘高等学校の美術課程となっていましたが、
昭和５５年に銅駝中学校の跡地に京都市立銅駝美術工芸高等学校として独立し開校しました。このイチョウは敷地の南東の鴨川に沿った場所にあり、対岸からもよく見えます。

イブキ：
京都府庁　上京D12
［区民の誇りの木］

本館正面に陣取る貫禄あるイブキの古木。樹齢３００年といわれています。

ユリノキ：
京都府庁　上京D13
［区民の誇りの木］

正面入口の東側で、付近のクスノキと一体となって緑の壁をつくっています。

エノキ：
富小路殿公園　中京A10
［区民の誇りの木］

東西両側が通りに面する公園で、このエノキは西南隅の柳馬場通側にある大木です。

イチョウ：
菅原院天満宮　上京D14
［区民の誇りの木］

菅原邸跡にまつられた天満宮の境内では、ひときわ目だつ存在。

ケヤキ：
釜座通　上京D15
［区民の誇りの木］

昭和５３年頃に植えられました。府庁へと導く貫禄たっぷりの並木です。

イチョウ：
富小路殿公園　中京A11
［区民の誇りの木］

公園の東南、富小路通に面してそびえるイチョウの大木です。
この公園は昭和１３年に開園しましたが、このイチョウはその時すでに大木としてこの場所にありました。

ザクロ：
京都御幸町教会　中京A12
［区民の誇りの木］

ザクロは西アジア原産の樹木です。夏に真紅の花を咲かせ、秋に球形の果実を付けます。熟して裂けた果実の中に淡紅色の透きとおった皮に包まれた種子が詰まっています。酸味がありますが、食べられます。

ヒマラヤスギ
：室町教会　上京D16
［区民の誇りの木］

手入れされた樹形と建物とが調和して、個性的な景色を形成しています。

イチョウ
：御所南小学校　中京A07
［区民の誇りの木］

元富有（ゆふう）小学校がこの地に移転した明治２４年にはすでにこの地にあった大木です。

ケヤキ・ソメイヨシノ：
竹間公園　中京A05 中京A06
［区民の誇りの木］

竹間公園は、昭和２２年に疎開跡地に設置された公園で、ケヤキはその当時に植えられたものと思われます。
隣接する小学校の跡地利用の一環で「こどもみらい館」とともに平成１２年に再整備されました。
公園の拡張整備に当たっては、ケヤキとソメイヨシノを残して植樹帯が設けられました。

ケヤキ

［区民の誇りの木］

ソメイヨシノ

エノキ：旧府知事公舎　▲1
［天然記念物］

景観の特性と形成方針（京都市景観計画　抜粋・要約）

歴史遺産型美観地区　（一般地区　－　御所）

御所及びその周辺からなる御所地域一帯は、御所の緑が景観上重要な構成要素となっている。御所を取り囲む烏丸通、丸太町通、今出川通及び寺町通の沿道の敷地には、格調ある建築物と手入れの行き届いた植栽が施され、まとまりのある景観を形成しており、これらは、御所の緑と呼応して良好な景観を形成している。

こうした景観特性の継承を、この地域の景観形成の基本方針とする。

このため、御所に面した敷地にあっては、御所の緑と調和するよう生垣を設ける等、植栽に特段の配慮をする。また、道路に面する外壁面については、３階以上の壁面を１階の壁面から後退させるほか、空地を十分に設け、生垣等を設けるようにする等、緑豊かな景観の保全、形成を図る。さらに、建築物については、勾配屋根に日本瓦ぶき等とする等、和風意匠を採り入れることにより、風格ある景観形成を図る。

1）京都御苑から東山への眺望

2）烏丸通の町並み

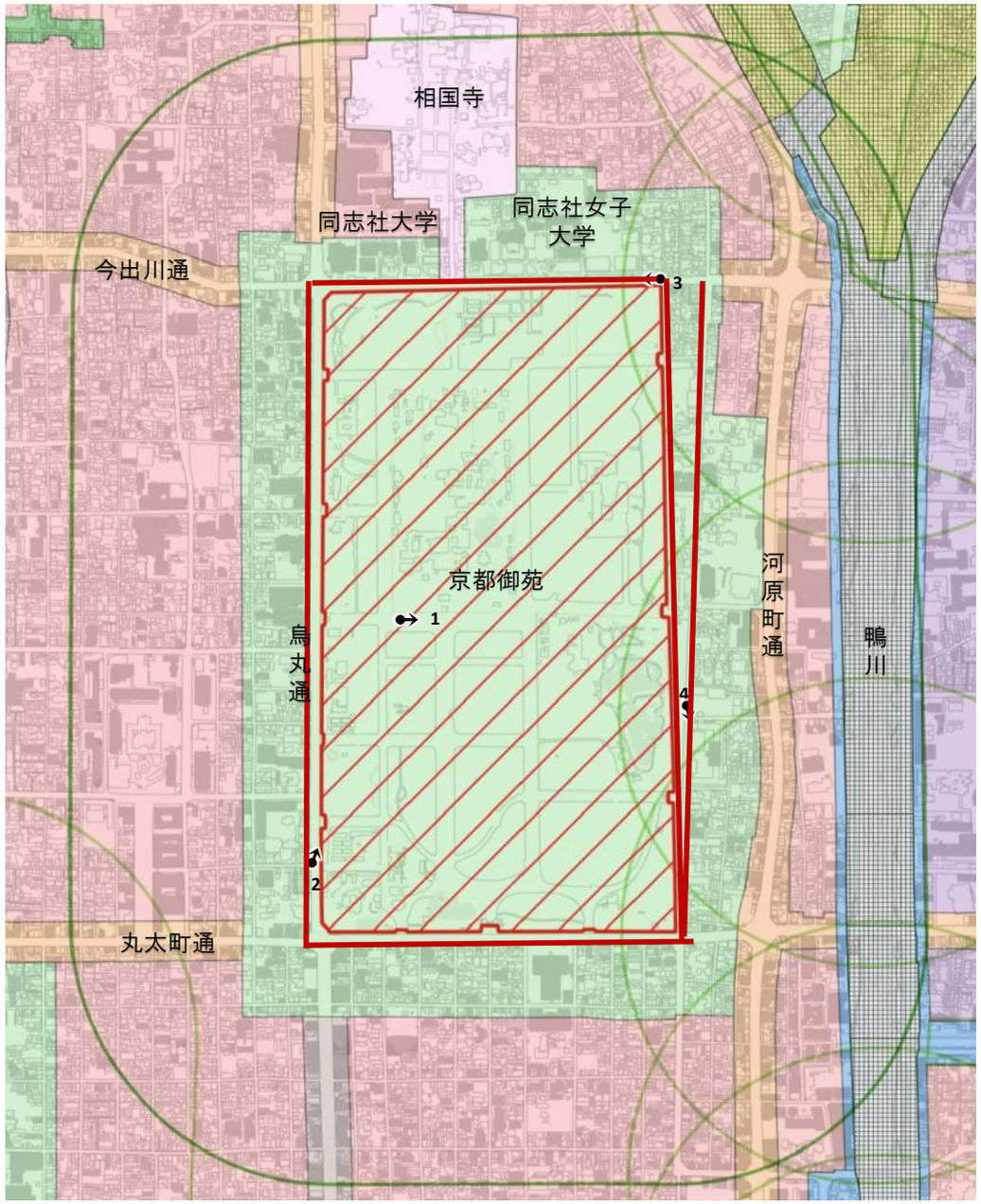
3）今出川通の町並み

4）寺町通の町並み

旧市街地型美観地区　（御所周辺）

御所周辺地域は、緑豊かな御所の周囲を取り囲む地域から構成される。今出川通、堀川通及び丸太町通に囲まれた御所西側の地域には京都府庁、御所北側の烏丸通、紫明通及び賀茂川に囲まれた地域には、同志社大学や相国寺が旧市街地景観を色濃く残し、これらの近代建築物や寺院の堂宇が景観に重厚さを与えている。また、この地域の各所から御所や相国寺、上御霊神社などの豊かな緑を垣間見ることができる。さらに、寺町通沿いには数多くの寺院が連担しており、地域の歴史的な町並みを特徴づけている。こうした景観特性の継承を、この地域の景観形成の基本方針とする。

このため、勾配屋根の和風基調の外観とし、落ち着きのある町並み景観を形成するとともに、御所や社寺の緑と調和するよう積極的に敷地内の緑化を図る。また、現代建築物については周囲の歴史的建造物や京町家に調和した形態意匠とすることにより、落ち着きのある町並み景観を保全する。



【凡例】

眺望景観保全区域
- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

風致地区
- 風致地区第1種地域
- 風致地区第2種地域
- 風致地区第3種地域
- 風致地区第4種地域
- 風致地区第5種地域
- 風致特別修景地区

景観地区
- 山ろく型美観地区
- 山並み背景型美観地区
- 岸辺型美観地区
- 旧市街地型美観地区
- 歴史遺産型美観地区　一般地区
- 歴史遺産型美観地区　歴史的景観保全修景地区
- 歴史遺産型美観地区　界わい景観整備地区
- 重要界わい景観整備地域
- 沿道型美観地区
- 市街地型美観形成地区
- 沿道型美観形成地区

建造物修景地区
- 山ろく型建造物修景地区
- 山並み背景型建造物修景地区
- 岸辺型建造物修景地区
- 町並み型建造物修景地区

その他
- 伝統的建造物群保存地区
- 歴史的風土保存地区
- 歴史的風土特別保存区域

※　詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

1) 佐和 隆研　ほか編集. 京都大事典.淡交社、1984、p.278
2) 京都市 編. 史料 京都の歴史第7巻　上京区. 平凡社、1980、p.248、p.249
3) 下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、1979、p.600
4) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路.小学館、1994、p.30
5) 同上、p.34
6) 京都市 編. 史料 京都の歴史第7巻　上京区. 平凡社、1980、p.138
7) 同上、p.139
8) 同上、p.172
9) 同上、p.220
10) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路.小学館、1994、p.120
11) 同上、p.114
12) 京都市 編. 史料 京都の歴史第7巻　上京区. 平凡社、1980、p.248、p.249
13) 下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、1979、p.600
14) 京都市 編. 史料 京都の歴史第7巻　上京区. 平凡社、1980、p.138
15) 同上、p.139
16) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路.小学館、1994、p.30
17) 同上、p.34
18) 同上、p.35
19) 京都市 編. 史料 京都の歴史第7巻　上京区. 平凡社、1980、p.172
20) 同上、p.220
21) 同上、p.248
22) 下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、1979、p.6009
23) 京都市 編. 史料 京都の歴史第7巻　上京区. 平凡社、1980、p.138
24) 同上、p.106
25) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路.小学館、1994、p.30
26) 京都市 編. 史料 京都の歴史第7巻　上京区. 平凡社、1980、p.81
27) 同上、p.220
28) 下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、1979、p.600
29) 京都市 編. 史料 京都の歴史第7巻　上京区. 平凡社、1980、p.139
30) 佐和 隆研　ほか編集. 京都大事典.淡交社、1984、p.274、p.275
31) 平凡社. 寺院神社大事典1　京都・山城. 平凡社、1997、p.342
32) 同上、p.322
33) 同上、p.534
34) 佐和 隆研　ほか編集. 京都大事典.淡交社、1984、p.378
35) 平凡社. 寺院神社大事典1　京都・山城. 平凡社、1997、p.447
36) 同上、p.197